

# 朝野新聞

第千三百七十一号 甲

廣島縣下備後國笠岡町に住む  
川上松助といふ其妻の名を春とよび  
明治二年の頃よりして互に浮気の  
轉ひ合ひ友白髪迄約束し夫婦と  
なりて九年あり常あ夫が大酒を  
好み女狂ひの故時々竹矢つくづく目  
少く泣々数度の異見を聞かれ  
ちく打つるを荒き妻の多くし  
止る気色もあざる故所詮行を  
覺束しといひせんと思案を定め  
歎きに沈むとさと思案を定め  
昨明治十年十一月五日の夜半は松助  
例の大酒を酔伏する折とをうと出  
庖丁逆手に持て只一突咽喉を深  
く貫け松助は七轉八倒其息を  
果たれ同ト及我が胸へ突立一其  
死よまらばその筋を療治せしめ  
全快の上と十五日三月遂に果首小  
所せり也たり



朝野新聞1371甲号 文庫10-8342-3

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library